

第1回留学研究奨励金給付事業認定研究に関する成果報告

2023年度「第1回留学研究奨励金給付事業」において認定された研究の成果について報告いたします。
本報告では、2025年5月時点における成果の概要を記載しております。

(敬称略)

氏名	所属機関名／留学先機関	所属機関 役職	研究課題名／研究成果の概要
大林 祐樹	京都大学大学院 医学研究科循環器内科学	大学院生	三尖弁逆流症の予後予測に有用な新規心機能指標の確立
	Leiden University Medical Center		ペースメーカー留置を受けた患者を対象に、術前右室機能と術後三尖弁逆流症発症との関連を検討した。面積変化率および自由壁ストレイン低下が独立した関連因子であり、三尖弁逆流症発症は予後不良と関係していた。本研究は論文投稿準備中である。他にも、三尖弁逆流症の発症や予後予測に関する複数の研究を進めている。
羽田 昌浩	土浦協同病院 循環器内科	医師	経皮的冠動脈インターベンション患者に関する微小血管障害と冠血流変化について
	Azorg Aalst, Cardiovascular Center		現状ベルギー、オランダをはじめアジア、アメリカを含めた international registry である PPG Global のデータを使用し論文作成を行い投稿直前、同内容にて EuroPCR にて学会発表を行った。今後も多くの論文作成できるよう進めていく。
小張 祐介	慶應義塾大学医学部 内科学(循環器内科)	共同 研究員	経カテーテル大動脈弁置換術後の生体弁血栓症の発症メカニズムの解明、および生体弁の耐久性・予後に与える影響の検討
	The Heart Center, Rigshospitalet		これまでにデンマークで施行された TAVR 4,000 例の長期予後データを整理・統合し、精度の高い研究基盤を構築した。またそのうち術後 CT を施行された約 700 例に対し、HALT の有無やそれに関連する CT パラメータを現在詳細に解析中であり、HALT 発症メカニズムおよび予後への影響を多角的に検証する体制を整えている。
片岡 翔平	東京女子医大 循環器内科	助教	心房期外収縮が心房リモデリングに与える影響と心房細動の発症メカニズムを解明すること
	University of California, San Francisco		心房期外収縮により心房リモデリングの成り立ちを明らかにした。このモデルの心房リモデリングは心房圧の上昇と非同期運動に始まり、その後、心房内伝導速度の低下と拡大が起こる。現在は、このリモデリングをプロモートする molecular pathway の解析を行なっている。
池田 和正	東京医科大学 八王子医療センター 循環器内科	助教	冠動脈絶対血流量を用いた冠微小循環障害診断アルゴリズムの確立
	Cardiovascular Center OLV Aalst		冠動脈絶対血流量測定の方法・概念に関しては循環器領域の主要論文に掲載された(J Am Coll Cardiol. 2021 Oct 12;78(15):1541-1549.)。この診断法による予後予測に関しては留学先の OLV が中心となり、多施設前向きレジストリー研究(NCT04598308)を開始したが、2025年3月24日現在、目標登録患者数に到達していない。今後、研究結果を学会・学術誌などで発表する予定である。

*所属機関名、役職は、本事業「第1回留学研究奨励金交付申請書」受付時点で表示しております。

令和7年6月3日
一般財団法人朝日インテック・宮田尚彦 医療技術支援財団